

武漢市が旅行消費券を配布

春の旅行シーズンを直前に迎えている。そのような中、市旅遊局の張侠局長は武漢晩報(百姓問政)の取材に対し、武漢市は既に2300万元(約34,500万円)分の旅行消費券を市民向けに配布しており、今年中に5億元(約75億元)規模の配布を行うと回答した。

旅遊局の幹部は、「“旅行消費券”の発券は、市民に恩恵を与え、武漢三鎮旅行市場に刺激を与えている。また、レジャー産業と関連産業の相乗効果により、関連産業の発展も促し、金融危機下において、内需を刺激し、消費を喚起すると確信している」と語っている。

これまでに、東湖磨山景区が市内の旅行会社を通じて、20元(約350円)の入場券10万枚、計200万元分を配布した。その他にも、黃陂木蘭古門景区が100元(約1,500円)の旅行消費券を100万元(約1,500万円)分発行しており、中科院植物園は1,000万元(約15,000万円)分の旅行消費券を発行する予定である。

春の旅行シーズン、ゴールデンウィーク、夏休みとピークを控え、各観光地ではさらに大規模な消費券の発行を計画している。初期推計では、今年1年における旅行消費券は5億元(約75億元)規模に達する見込みである。

今年からスタートする特色ある両型オリジナルイノベーション科学技術活動を開始

湖北省が主催し、武漢市が実施する「オリジナルイノベーションと地域経済振興に関するフォーラム」が昨日、合肥市にて開催された。武漢市は今年から「両型」社会づくりをめぐる「853」オリジナルイノベーション科学技術活動の推進に力を入れる。太陽エネルギー、電動自動車、燃料電池LED、太陽光発電パネルなど8つの「両型」特色ある産業クラスターを構築し、「10の都市に1000台の車」「10の都市に1万個のライト」など5つの「両型」特色あるモデルプロジェクトを定め、事業化するための専門技術のサービスプラットフォーム、産学協同空間、および融資イノベーションのための3つのプラットフォームをつくることにしている。

両型社会とは「資源節約型」「環境にやさしい取り組み」の社会である

2009年4月30日付け 「武漢市政府ネット」より

武漢市に都市エネルギー総合管理セクションを設置

武漢市のエネルギー消費は年々増加する一方、その管理体制は縦割り行政の中で、部門ごとに分散されており、集約されておらず、非合理的である。昨日、市政府常務会にて武漢市におけるエネルギーの発展状況が特にこの課題について、検討されたこの問題の解決方法として、武漢市は現在、新たな機構改革をしており、総合経済管理部門に、エネルギー管理セクションとして、「エネルギー局」もしくは「エネルギー管理弁公室」を設置し、これによってエネルギー計画の管理権限、職能を強化する。

情報によれば、経済と社会の急速な発展に伴い、武漢市のエネルギー需要量は持続的に増加しており、2008年のエネルギー消費量は標準石炭換算で4000万トンであった。これは2007年と

比較すると3%増加し、湖北省のエネルギー消費量の25%以上を占めている。

武漢市のエネルギー管理には石炭、電力、石油、ガス、新エネなどの様々な分野、業界がかかわっている。昨今の各部門の機能分担をみると、エネルギープロジェクトの前期管理は武漢市発展改革委員会が、電力調整管理は武漢市経済委員会が、精製石油製品の管理は武漢市商務局が、天然ガス管理は武漢市都市管理局が、そして農村エネルギー管理は武漢市農業局が担当しており、さらに省エネ事業に関しては各部門によりそれぞれ管理されている。

エネルギー管理は現在、多部門が独自に行っているため、管理機能と権限が錯綜している。この問題を解決するため、湖北省が近く、国が設立したエネルギー局を参考にエネルギーセクションを設置することになっているから、武漢市も各部門のエネルギー管理機構を統合するエネルギー事務所の機構改革システムを構築する計画を打ち出した。これは昨日の市政府常務会議において、原則示され、通過した。また機構改革プランの中で、専門のエネルギー管理セクションを設立することも明らかにし、武漢市総合経済管理部門に所属するこのセクションが、武漢市のエネルギーを統一で管理することとなる。